

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

USR (University Social Responsibility/大学の社会的責任) の観点から、地域社会との連携活動への積極的参加を行い、大学としての知的資源の還元を目標としている(資料 8-1 p.83)。

① 生涯学習センターの活動

生涯学習センターは、学内外の資源やネットワークの活性化を促進し、広く社会全般に、来たるべき時代の新たな指標と可能性を提示することをもって、文化の進展に寄与することを目的に 2002 (平成 14) 年に設立された(資料 8-2)。

こどもから大人まですべての人々が、自らの手で芸術・文化にふれて思考し、その自由なあり方を享受することができる事業内容の展開を図ると共に、地域の文化拠点としての役割を担っていくことを目指している。

生涯学習センターにはセンター長、総合プロデューサー、プロデューサーのほかに、専属のスタッフを置いて運営にあたっている。

② 地域社会との連携・社会貢献としての活動

本学の各施設が立地する地域との連携も、本学が積極的に取り組んでいる社会貢献のひとつの形である。美術大学ならではの知と技術の資源を活用し、地域と密に連携した活動は、地域の教育や文化活動にも大きく貢献している。

本学は、以下の 2 つのコンソーシアムの設立目的と趣旨に賛同し加盟している。

[大学コンソーシアム八王子]

八王子地域には、23 の大学・短期大学・高等専門学校があり、約 11 万人の学生が学んでいる全国でも有数の学園都市である。

大学コンソーシアム八王子は、この地域特性を活かし、大学・市民・経済団体・企業・行政等が連携・協働し、大学・学生・市民にとって、より一層魅力ある学園都市を目指して、2009 (平成 21) 年 4 月に設立された(資料 8-3)。

[さがまちコンソーシアム(相模原・町田大学地域コンソーシアム)]

相模原市と町田市にある近隣大学・企業・行政等が連携し、多彩な学びの場を市民に提供する「教育学習事業」、まちづくりの担い手を育成する「人材育成事業」、新たな文化・福祉・産業の発展に寄与する「地域発展事業」といった様々な事業を展開している(資料 8-4)。

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

① 生涯学習センターの活動

2000 (平成 12) 年度に年間 40 講座で始まったプログラムは、2010 (平成 22) ~2012 (平成 24) 年度には約 130 講座まで充実し、年間延べ 10,000 名を超える参加希望を集め、受講者数は約 6,000~7,000 名/年にも及ぶ。

講座数の約 1/3 が、こども(小中学生)を対象としたものであり、本学の公開講座の一つの大きな特徴と言える。

また、学内での講座開設のみならず、自治体や学外の諸機関との連携講座の実施、芸術普及に関する調査・研究等も進めている（資料 8-5、資料 8-6）。

（表 2007-2013 年度 生涯学習プログラム開講実績）

年度	開講講座数	定員	申込者数	受講者数
2007 年度	134 講座	4,013	5,883	3,456
2008 年度	142 講座	4,315	6,490	3,518
2009 年度	126 講座	4,219	5,161	3,146
2010 年度	136 講座	6,718	11,006	6,691
2011 年度	115 講座	5,437	10,516	6,231
2012 年度	132 講座	6,376	12,135	7,808
2013 年度	81 講座	4,359	7,405	5,320

【こども講座「好奇心の学校『あそびじゅつ』】

夏休みや土・日を中心に開講しているこども講座（2001 年～）には、年間約 1,600 名の小中学生が参加している。つくることのみならず主眼を置くのではなく、見て、ふれ、感じ、考えながら、美術を通して世界へのやわらかな眼差しを育む講座づくりを目指している。

小学生のときに参加したこどもが、本学の学生となり、今度は運営側としてサポートする事例等、開始より 14 年間、連綿と活動してきた成果が結実している。

【連続講義シリーズ「世紀を歩く」（2012 年度～）、「美術と〇〇」（2010 年度）、「デザインと〇〇」（2011 年度）】

年間 全 20～30 回の連続講義シリーズ。学内教員のみならず、学外からも講師を招いている。特に「世紀を歩く」は、美術・芸術にとどまらず文学・歴史・思想等、広範な人類の営みから芸術をとらえ直す特色ある企画で、受講者も年間延べ 4,700 名（2012 年）と好評を得ている。

また、講演会として、不定期ではあるが「特別講座『芸術と人生』」のシリーズを無料で開講している。（第 15 回「団塊の世代と芸術」堺屋太一／2006 年、第 16 回「人の命は甘美である」瀬戸内寂聴／2010 年）

【演習講座、講義講座】

絵画、版画、彫刻、工芸、写真、映像、デザイン等、様々な表現手法を用いて、美術の面白さ、創造の愉しみを追求していく。実制作のみでなく、理論も合わせて学ぶことで、より「美」の本質に迫るための手法を実践している。

【地域連携事業】

- ・世田谷区主催「才能の芽を育てる体験学習」において小学 5・6 年生を対象に「あそびじゅつ」講座（2008 年より毎年 1～3 回実施）
- ・「八王子市子ども体験塾」助成事業として小学生を対象に「あそびじゅつ」講座（2006～2009 年度）
- ・他自治体、市民団体、美術館との「あそびじゅつ」連携講座（町田市「市制 50 周年大学連携事業」、相模原市民文化財団、「目黒区教育委員会 TRY2008」、NPO こども劇場

せたがや、国分寺市光公民館、東立川幼稚園、下山芸術の森発電所美術館、渋川市美術館ほか多数)

- ・企業との「あそびじゅつ」連携講座（株式会社クサカベ、福助株式会社ほか）
- ・震災後支援プロジェクトとしての「あそびじゅつ」開催（福島県立美術館及び須賀川市、主催 CWAJ／2014年）
- ・各団体に出向いての「あそびじゅつ」実践報告（世田谷区瀬田小学校、世田谷区「アートに関する交流会 2014」、八王子市教育委員会、島根県教育委員会ほか多数）
- ・世田谷区との共催講座「芸術と人生」シリーズ、「世紀を歩く」シリーズ
- ・世田谷区リカレント学習連携講座指定「エッセイで自分を見つめる」（2012年）、「人間の美術史」（2011年）ほか多数
- ・さがまちコンソーシアムとの連携講座「衛生からのメッセージ」（2014年）
- ・学芸館高等学校（通信制）のスクーリング単位認定への協力（2006年～）

公開講座においては、単に、ある学科の一授業をそのまま公開するというにとどまらず、全学科（領域）を横断した総合的なプログラム編成に努めている。

特に演習講座では、各学科の工房・アトリエ等の充実した専門設備を使用した講座を開講することで、施設の開放という意味でも貢献している。

受講者は、地元地域にとどまらず、広く関東近県からも多数集まっている。

特にこども講座「あそびじゅつ」や演習講座において、学生がティーチングアシスタントとして年間延べ300名ほどが参加する等、学生にとっても授業とは違った学びの場となっている。

社会と芸術をつなぐ人材を育てる芸術学科と連携し、学生らがゼミの授業で構築した講座やワークショップを共催したり、また芸術人類学研究所との連携講座、本学美術館での講座を実施する等、学内のネットワークづくりにも努めている。

特に「あそびじゅつ」を中心に、自治体、企業や美術館、各種団体に働きかけ、積極的な連携活動を行っている。

② 地域社会との連携・社会貢献活動

【大学コンソーシアム八王子 単位互換】

大学コンソーシアム八王子の多彩な事業展開の中で、以下の12大学等と単位互換を行っている（資料8-7）。

東京工科大学、創価大学、サレジオ工業高等専門学校、ヤマザキ学園大学

東京家政学院大学、東京工業高等専門学校、山野美容芸術短期大学

東京造形大学、東京純心女子大学、杏林大学、明星大学、工学院大学

【八王子学園都市大学（愛称：いちょう塾）】

大学コンソーシアム八王子の一事業で、市民が意欲をもって学ぶ機会の場を提供することを目的として、市民に大学の正規授業や講座を公開している（資料8-8）。

(2014年度 いちよう塾開講講座)

開講期	講座名	場所
前期	西洋美術史研究IV-1 ～西洋美術の主題：旧約聖書と新約の諸聖人～	多摩美術大学
後期	西洋美術史概論IV-2	多摩美術大学
前期	西洋美術史概論-1A	多摩美術大学
後期	西洋美術史概論-2A	多摩美術大学
前期	西洋美術史概論-1B	多摩美術大学
後期	西洋美術史概論-2B	多摩美術大学
後期	バイオ・アート論	多摩美術大学
前期／後期	日本画に親しむ ～初心者から上級者まで自由な発想を大切に描く～	八王子市学園都市センター
前期／後期	ワークショップ・シルクスクリーン	多摩美術大学
前期	手軽に楽しむ水墨画（上級）	八王子市学園都市センター
前期	手軽に楽しむ水墨画（中級）	八王子市学園都市センター
後期	「木との語らい」木彫刻教室	八王子市学園都市センター
後期	絵画を見るためのちょっとしたヒントⅠ ～静物画と風景画の見方～	八王子市学園都市センター
後期	オリジナル版画制作 ～クリスマスカード、年賀ハガキをつくろう～	多摩美術大学

※ 上記以外にも小学生を対象に、2001（平成13）年度より毎年「夏休みこどもいちよう塾」を開講している。

[さがまちコンソーシアム]

- ・さがまちコンソーシアム大学への講座提供／ 2009年～
- ・相模原・座間市民大学への講座提供／ 2008年～
- ・ケーブルテレビ番組制作（映像論ゼミ生）／ 2008年～
- ・町田市民病院アートワーク計画／ 2007年
- ・町田市中学2年生職場体験事業／ 2005年～

[ギャラリー「たまびば」]

2005（平成17）年、株式会社スーパーアルプスと環境デザイン領域、情報デザイン領域の大学院生により、スーパーアルプス多摩境店内にオープンしたカフェ&ギャラリースペースである。学生の制作活動を地域住民の方に知ってもらおうと共に、身近に美術を楽しむための空間として親しまれている。

[つたえよう！アニメで卒業メッセージ]

八王子市柏木小学校6年生の図工の授業を、2003（平成15）年から3年間にわたりサポートしたプロジェクトである。卒業記念で行う小学生のクレイアニメの制作を情報デザイン学科の学生ボランティアと一緒に手伝った。

[多摩美術大学彫刻展]

本学が八王子市と共催で2004（平成16）年から定期的に行っている美術展である。彫刻学科の教員・学生の作品を中心に定期的に行っている。

[多摩国体イベント炬火台制作]

2012（平成24）年、八王子市教育委員会国体推進室より「スポーツ祭東京2013」で使用する富士森林公園陸上競技場の炬火台の制作依頼を受け、工芸学科の教員指導のもと、美術研究科工芸専攻の3名によって「繫」（つながり）をテーマに制作した。

[高大連携授業]

高校生に大学の実技や講義を受講する機会を設ける活動である。2001（平成13）年より東京都立片倉高等学校との連携教育をスタートした。その後、2006（平成18）年に東京都立八王子桑志高等学校、2008（平成20）年に東京都立工芸高等学校、2010年（平成22）年に東京都立総合芸術高等学校と連携教育に関する協定を結び、高大連携授業を実施している。美術学部八王子キャンパスで、毎年4～5学科等が実施している。

[ガーデンシティ 多摩センターこどもまつりへの参加]

毎年こどもの日を含む3日間、多摩センター駅周辺で開催されるこども祭りで、学生達が自身の制作した美術作品を展示・販売する「多摩美アート・マーケット」を同時開催している。

[その他の活動]

- ・町田市民病院アートワーク計画／2007年
- ・町田市小山ヶ丘小学校にてデザインとものづくりについての講話／2007年
- ・「小さな美の感情展」開催／2002～2006年
- ・ふとした瞬間に芸術にふれてもらうための活動として開催、ショーウィンドウや噴水広場等、八王子駅ビル各所に教員や学生の作品を展示すると共に、美術講座を開催した。展示作品は八王子市福祉事業のチャリティで販売した。
- ・八王子市教育委員会「夏季パワーアップ研修」協力／2002～2006年
- ・世田谷区瀬田地域「道のネームプレート」制作／2002年～
- ・地域と大学を結ぶ情報紙「さがまち」の企画参加／2003年～
- ・That's 八王子学 ～学生が提言するまちづくりとは～にて、「水の恵みをうけるまちづくり-湧水ネックレス構想実現に向けて」の提案／2006年
- ・「地域で支えよう町田っ子の未来探し（中学2年生職場体験事業）」受け入れ／2005年～
- ・八王子駅前商店街トイレサインのデザイン／2005年
- ・八王子鑑水地域フェスタへの参加／2002年～2013年
- ・学術・文化・産業ネットワーク多摩への参画／2005～2013年
- ・八王子市立鑑水小学校5年生との共同研究／1999年～
- ・八王子市立鑑水小学校でのワークショップ／2014年度
- ・南大沢保育園の遊具・玩具のデザイン開発と制作／1981年～
- ・八王子市立石川中学校にて講演会「手の魅力ー木の魅力」／2014年

③ 知的資源の社会への還元状況

美術大学ならではの知的資源を活用し、専任教員による研究成果の社会への還元や、国や

地方自治体等の政策形成への寄与など、様々な活動を積極的に行っている（資料8-9）。

2. 点検・評価

●基準8の充足状況

大学の社会的責任の観点から、大学としての知的資源の還元を目標として、地域社会との連携活動への積極的参加を行っている。

生涯学習センターを設置して、学内での講座開設、自治体や学外諸機関との連携講座の実施、芸術普及に関する調査・研究等も幅広く進めている。

大学が生み出す知識・技術等を社会に効果的に還元するため、地域の複数のコンソーシアムにも積極的に参加して、他大学との単位互換や、市民に大学の正規授業や講座等を公開している。

また、美術大学ならではの知的資源を活用して、地域のイベント等への参加、作品の制作やデザイン、専任教員による研究成果や社会への還元、国や地方自治体等の政策形成への寄与など、様々な活動を積極的に行っており、同基準を充足している。

① 効果が上がっている事項

本学における社会連携及び社会貢献については“美術大学”という特性を活かし、他大学には真似のできない多彩な講座や、充実した専門施設を使用した講座が用意されている。

また、一般大学での公開講座等では、社会人等に対象が絞られてしまうが、本学の地域連携の参加方法は、一般的な公開講座に加え、街づくりの一環や子供を対象とする講座等、対象者の幅を非常に広く設定している。自然なかたちで地域との連携を深めており、効果が上がっている。

② 改善すべき事項

高大連携授業については、2001（平成13）年から実施し、協定校を増やしながら現在4校との連携教育を実施し、成果を上げてきた。しかしながら、ここ数年は受講生数が減少の傾向にあり、新たな連携校の拡大を図っていきたいと考えていた。2014（平成26）年には、神奈川県立弥栄高等学校及び東京都立世田谷総合高等学校と新たな協定を結び、2015（平成27）年より連携授業を実施する計画である。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

生涯学習センターが行う講座開設や、各コンソーシアムの事業のなかで行う正規授業の公開や講座開設は、毎年多くの受講者を集めている。また本学の講座等には、リピーターが非常に多いのが特色である。これらは、マンネリ化しがちな事業に関しても、常に受講者のニーズに応え、新規講座の開設にも取り組んできたからであると考えている。

② 改善すべき事項

生涯学習センターの活動は、これまで上野毛キャンパス（世田谷区）を主な会場として開講してきたが、2014（平成26）年度の改組転換に伴う上野毛キャンパスの整備工事のため、2013（平成25）年の秋季以降より当分の間、同キャンパスでの開講を縮小（一部講座を除いて休止）している。

生涯学習センターは八王子キャンパスに事務局を移転し、その間は八王子キャンパスや本

学美術館（多摩センター）、並びに大学外の施設等、様々な場所で講座を開設しながら、なお一層、多様なかたちで美術・芸術にふれる機会を提供していくよう努めていく。

4. 根拠資料

- 8-1 多摩美術大学 大学案内 2015（既出 資料1-3）
- 8-2 多摩美術大学生涯学習センター規程
- 8-3 大学コンソーシアム八王子ホームページ
<http://www.gakuen-hachioji.jp/>
- 8-4 さがまちコンソーシアムホームページ
<http://sagamachi.jp/>
- 8-5 生涯学習プログラム受講者数（2013年度～2007年度）
- 8-6 生涯学習プログラム（パンフレット）
- 8-7 大学コンソーシアム八王子 単位互換履修生 募集ガイド 2014年度
- 8-8 八王子学園都市大学 いちよう塾 開講状況（平成21年度前期～平成26年度前期）
- 8-9 専任教員による国や地方自治体等における活動状況（2014～2012年度）